

令和2年4月14日

川崎市長
福田 紀彦 様

川崎商工会議所
会頭 草壁 悟朗

京急川崎駅周辺の再開発計画を契機とした 駅周辺全体の抜本的な整備等要望

平素、川崎商工会議所の事業活動につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、京急川崎駅西口地区において、再開発の検討が進められていると伺っております。

京急川崎駅西口地区を含む「京急川崎駅周辺地区」においては、平成27年3月に策定された『京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針（以下、整備方針という）』に基づき、超高齢社会の到来や都市間競争の激化などの社会状況の変化や周辺環境の変化に対応し、持続可能で活気にあふれたまちづくりが進められていることと存じます。

その中で、京急川崎駅西口地区における再開発計画は、地区のポテンシャルを最大限生かし、川崎エリア全体の魅力・価値の向上を図る絶好の機会と考えます。

川崎市におかれましては、川崎の玄関口にふさわしい活力と魅力にあふれたまちづくりを実現するため、当再開発計画を契機として、次の点について特段のご高配を賜り、同整備方針に基づくまちづくりを強く推進いただけるよう、地元経済界としてここに要望するものであります。

1. 周辺開発への波及効果のあるハイグレードオフィス開発の推進

首都圏の近年の開発動向をみると、新宿・渋谷の開発から、東京・品川など東海道沿線に開発が移行してきている状況にあります。川崎駅周辺においても、JR 川崎駅西口でオフィスを中心とした大規模開発が進められています。

その中、京急川崎駅周辺地区は、羽田空港に直結し、世界的な成長が見込まれる殿町国際戦略拠点がある臨海部からも至近距離であることから、グローバル企業や海外のベンチャー企業などの進出が期待されます。

これらの動向や立地的優位性を最大限活かし、川崎地域全体で国際競争力を強化するため、川崎駅周辺におけるオフィス市場形成の一翼を担うリーディングプロジェクトとして、Sクラスのハイグレードオフィスを主体とした駅前開発の推進を要望いたします。

2. 乗換利便性を向上する歩行者デッキ等の延伸

2017年度に川崎駅北口自由通路が整備されたことにより、これまで鉄道で分断されていた東西の回遊性がさらに改善され、東西の市街地の連携による賑わいの相乗効果や周辺への波及効果が生まれています。

しかしながら、現在は川崎駅前タワー・リパークまでしか通路が繋がっておらず、依然として京急川崎駅への乗換利便性は高くない状況にあります。

そのため、京急川崎駅周辺地区においては、JR 川崎駅と京急川崎駅の乗換利便性を向上させるとともに、両駅間の賑わいを強化するべく、歩行者デッキ延伸等による乗換利便性の向上を要望いたします。

3. 賑わいの相乗効果を生む歩行者専用道路の拡大・充実

川崎フロンティアビル前の一部では歩行者専用道路が整備されていますが、京急川崎駅周辺地区全体としては、歩行者・自転車・自動車の動線が分離されておらず、また、地区内には高低差があり、バリアフリー化が進んでいない箇所も存在するなど、安全な歩行者空間が不足しています。

国際的な広域拠点を目指す京急川崎駅周辺地区においては、地域の人々や来街者が安全かつ快適に行動できる歩行者空間を充実させる必要がある

と考えております。

川崎の玄関口にふさわしい活力と魅力にあふれたまちづくりを実現し、国際的な広域拠点的形成するため、現在の駅前の歩行者専用道路の拡大・充実による安全で快適な歩行者空間の確保を要望いたします。

4. 街の活気を支える駅前のたまり空間の確保

京急川崎駅周辺地区では、安全な歩行者空間に加え、賑わいの拠点となる駅前のオープンスペースが不足しています。

川崎の玄関口にふさわしい駅前空間として、イベント開催時には賑わいの核となり、日常生活では地域の人々や来街者が滞留し、交流できる駅前の広場空間が必要であると考えております。

そのため、京急川崎駅周辺地区においては、駅前の歩行者空間と連携し、街の活気を支える交流拠点となる駅前のたまり空間の確保を要望いたします。

5. 地区全体の都市環境向上に寄与する多摩川との連携

京急川崎駅周辺地区は多摩川の自然環境に隣接しているため、駅前の賑わい空間と連携し、良好な街の環境を形成していくことが必要だと考えております。

京急川崎駅周辺地区の良好なまちづくりを進めるため、駅を中心とした賑わい空間と多摩川沿いの落ち着いた水辺空間をつなぎ、地区全体の賑わいの連携や都市環境の形成に寄与する多摩川との連携を要望いたします。

以 上